

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592000048		
法人名	医療法人 山仁会		
事業所名	グループホーム メゾン・こもれび		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町北高鍋4775番地		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jiyosyoCd=4592000048-00&PrefCd=45&VerIpnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設医療機関があり、医師が24時間対応できる。また、レクリエーションにおいて隣接している通所介護と合同で行うことで内容の充実を図っている。法人内には介護老人保健施設・通所介護・通所リハビリテーションがあり、毎月の法人全体の会議では様々な研修を取り入れている。職員による研修(感染・接遇・高齢者虐待防止・認知症ケア・プライバシーの保護)の他に、外部から講師を招き、法令遵守・感染・接遇マナー等の研修を行い、研鑽を重ねている。また、西都・児湯地区のグループホームブロック研修にも積極的に参加し、スキルアップに努めている。法人合同の秋祭り、同法人内のグループホームとのクリスマス会に家族・地域の方々を招待し、大きな楽しみになっている。地域との交流を大切に考え、町内・外のボランティアに訪問して頂き、交流を図っている。また、防災訓練には地域の方々に参加して頂き、協力体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念に「今を大切に、一日を幸せに」を掲げ、利用者一人ひとりがより幸せに、穏やかに暮らせるよう全職員が利用者と一緒に過ごす時間を大切にして支援している。法人全体で地域との交流に積極的に取り組んでおり、町内の各行事に参加し、ホームの行事に地域住民を招待し、地域ボランティアの受け入れ等を行い、利用者と地域の人々が集う機会を多く持っている。地域の積極的な避難訓練への参加も得ている。法人の研修体制が確立しており、職員は種々の内容の研修を受ける機会があり、資質向上に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来、「今を大切に、1日を幸せに」を継続して理念に掲げている。ホームに理念を掲示し、全職員で共有しながら入居者様の一瞬を大切に、1日を幸せな気持ちで過ごして頂けるようケアに活かしている。	ホームの理念を基に、地域密着型としての理念も掲げている。毎年、見直しも含め、全職員で話し合いをしている。日々笑顔で声かけすることを基本に、利用者の幸せな暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加している。また、町内の飲食店へ外出に出かけ、地域とのつながりを大切にしている。 秋祭り・クリスマス会に地域の方々を招待したり、定期的にボランティアグループに来て頂き交流を図っている。	町の祭りに出掛け、文化祭に作品を出展するなど、地域の行事に積極的に参加している。また、ホームの祭りやクリスマス会に地域住民を招待し、地域のボランティアも受け入れるなど、利用者が地域の人と交流する機会が持てるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の研修内容を報告、広報している。また、ホームでの認知症の方の困難事例、支援方法を報告している。ボランティア、見学者への広報活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域・家族代表・行政・法人内の居宅ケアマネージャーが参加している。その中でホームの現状・行事・取り組み・災害対策などを報告し、意見交換を行っている。そこで出された意見をホーム職員に報告し、サービスの向上に努めている。	ホームの状況を報告し、参加メンバーからは活発な意見や質問・要望が出るなど、双方向的で有意義な会議になっている。会議の際の要望で、地域の人や公民館長、家族がホームの避難訓練に参加する契機となった例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、ホームの実情を報告、広報している。また、役場にも出向き、アドバイス、相談を行い、協力体制を築いている。27年度は、役場より実地指導を受け、アドバイスを頂いている。	町の担当者が運営推進会議に出席し、ホームの状況を把握している。また、管理者が窓口に出向き、状況を報告して指導を受けるなど、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の研修等に参加し、全職員が理解している。しかし、現在離設の可能性が高い方がいらっしやるので、玄関、窓に施錠をする場合もある。毎月の運営会議で検討しながら解除できるように努めている。	法人全体及びホームでの研修が充実しており、身体拘束をしないケアについて全職員が理解している。現状で不安定な利用者があり、施錠する時もあるが、声かけや所在確認、散歩、見守りなどでの対応を常に話し合い、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に類似するものを見過ごさないよう、職員の精神の安定性と倫理を追求していく。法人全体で法令遵守・接遇・虐待防止に関する研修を行い、虐待、声かけを主とした関係法を学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点において活用事例はない。将来的に必要性が考えられる為、ホームの運営会議等で勉強会を実施し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭、文書等で十分な説明を行っている。家族の疑問や不安な事を伺い、納得、了解を得て署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、職員や家族、入居者様でゆっくり話す場を設け、意見や要望を聞いている。また、担当職員が入居者様の声に耳を傾けている。日常的な関係作りの会話の中から意見を取り上げ、ケアに活かしている。	家族の来訪時に職員も一緒に話をする時間を持ち、ケアでの細かな要望や意見を聞きだしている。家族会があり、アンケートを徴し、要望等を積極的に受け止め、それを全職員で共有して早急にケアへ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議に経営者と職員が参加し、現状報告や意見交換を行い、提案や意見を反映させている。経営者、管理者、職員は日頃より自由に意見交換のできる環境にある。	代表者等は毎月の運営会議に出席し、職員の意見や要望を聞き、それを反映させている。日頃より職員が自由に意見や要望を言える環境が整っている。職員から管理者、管理者から代表者・法人本部という体制も確立している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に心をくわいている。利用者を大切にす為には職員の心の安定が必要である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の場は内外問わず、適時、適切に出席してスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換の場に出向くことは、サービス向上に繋がると考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から家族と連絡を取ったり、本人の元を訪問し、状態、要望等の把握に努めている。希望があれば事前にホーム内の雰囲気を見学して頂き、本人様が安心して過ごせるよう、早い段階から関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にホームの様子を見て頂き、家族と話し合う場を設け、不安な事や要望等に耳を傾け、親密な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にかかりつけ医の情報や本人、家族からの情報をふまえ、今必要なサービスを検討し、他事業所や家族の協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事、得意とする事、やりがいのある事を見つけ、サポートするように努めている。また、やり遂げた事に対し共に喜び、生きがいを感じて頂けるように言葉掛けを行っている。常に尊敬の気持ちを忘れず、共に過ごす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して生活できるように、職員と家族が協力して支援している。家族との連絡を密にとり、本人の状態報告を行い、把握して頂けるように努めている。かかりつけ医への受診は、家族に依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人に頻回に面会に来て頂いたり、外出、外泊を促している。散髪、病院受診、買い物、外食、針治療等、今までの生活習慣を継続できるよう、家族と協力し、支援している。また、なじみの場所等にドライブがてら出かけ、思い出して頂けるようにしている。	地域の知人の来訪も多々あり、その関係が継続するよう声かけして支援している。隣接の通所施設に通う知人との交流やボランティアで訪問する知人との交流もある。美容室や買い物、年忌への出會等、家族の協力も得て、なじみの関係の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、理解したうえで、 入居者様が孤立せず、快適に過ごせる関係づくり を行っている。入居者様同士のトラブル、口論など には職員が間に入り、円満に過ごせるように努めて いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先に面会に行ったり、必要に応じて相談や支 援を行っている。現在、サービス終了した方の御家 族が読み聞かせのボランティアに来て頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して いる	一人ひとりの思いや希望を把握し、実現に努めて いる。本人の生活歴を大切に、ホームの畑やプラン ターで花や野菜を栽培している。御家族の協力を 得て、職員と一緒に墓参り、年忌への参加の支援 を行った。	日々利用者に寄り添い、言葉や表情から思いの 把握に努めている。家族の来訪時に同席して、雑 談の中で昔の暮らしぶりや趣味を聞きだしてい る。一人ひとりの思いの実現のため、個別支援に 積極的に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前には、家族、本人と直接会い、生活環境 の把握に努めている。また、入居後の生活の中で の発見、家族からの情報も職員間で共有し、支 援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や習慣、残存機能を把握し、 支援に努めている。また、心身状態を常に観察し 、全職員で記録に残し、把握している。その日 その日、その方が何を必要とし、何を望んでい るかを理解し、希望に添うことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当職員で話す機会を持ち、希望 や要望を聞き、介護計画に反映している。計画 作成担当者や担当職員を中心に話し合い、現状 に即した介護計画を作成している。	毎月担当職員がモニタリングを行い、一人ひと りのケアについて、全職員で話し合っている。 本人や家族の意向を確認し、現状に即した介 護計画を作成(見直し)している。日々の記録が 計画に対応した記載になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践及び、その結果を 個別の記入シートに日々記録している。記録は 全職員で確認し、毎日のケアや介護計画の見 直しにタイムリーに活かしている。		

宮崎県高鍋町 グループホームメゾン・こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する事業所の音楽療法等に毎週参加したり、本人、家族から要望があった際には、歯科往診、訪問針治療を依頼し、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域馴染みの美容院に行ったり、町内の飲食店へ外食に出かけたりしている。月1回の読み聞かせのボランティアや町内で活動しているボランティア団体の方々に、定期的に来て頂けるように支援している。 法人内では、実習生の受け入れ交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して頂いている。 受診は、家族にお願いしている。情報提供書は職員が記載し、それぞれのかかりつけ医との関係を築いている。突発的な発病時にも家族に連絡し、受診を依頼し、受診している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診しており、通院の際は情報提供書でホームの状況を伝え、文書等で結果を受ける関係作りがなされている。代表者(医師)が定期的な回診し、利用者の状況を把握しており、適切な医療を受ける体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人医師、かかりつけ医師による診察結果を基に、看護・介護が連携して、日々の健康管理や医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と情報交換を行い、治療計画を話し合っている。また、日頃から情報提供書や電話での情報交換を行い、関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・法人医師・職員で話し合い、かかりつけ医にも相談し、方針などを共有している。終末期の方針については文章化しているが、入居時に家族に提示するまでには至っていない。その都度、家族と話し合いを持つ事で、本人、家族の希望に添えるように努めている。また、併設病院にも協力をお願いしている。	法人の医療機関から協力が得られる体制を整えており、本人や家族の要望に沿う支援をしている。同法人のグループホームと協議して終末期の方針について、指針や同意書等が作成されているが、本人や家族に未だ提示がなされていない。	家族会で指針等を説明する機会を設けること、利用者のかかりつけ医と連携の確立をすること、具体的な取組について全職員で共有することなど、早急に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、急変時の対応手順やAEDの取り扱い方法、救急法の訓練を行い、学んでいる。また、吸引器の取り扱い法の勉強を看護職員が中心となって行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定防災訓練を消防機関に依頼し、実施している。地域住民が参加する訓練も実施しており、協力体制を築いている。年1回、地震を想定した訓練を独自で行っている。災害に備え、3日分の食料を準備している。	年2回、隣接する同法人施設等と一緒に避難訓練を実施している。利用者と一緒に避難場所に行くなど、具体的な訓練も行っている。訓練の際は、地域の人が自らリヤカーや簡易担架を持参し参加するなど、地域との協力体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、自尊心を傷つけない言葉掛けを心掛けている。法人内の年間計画に接遇研修、プライバシー保護の研修を取り入れ、日常的に全職員で確認し合い、丁寧な言葉使いを心掛けている。	法人で接遇研修を年数回実施しており、全職員が人格を尊重し、誇りを傷つけない丁寧な言葉や所作で支援している。利用者の中で、職員同士が会話する際にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話や訴えを傾聴し、自己決定を大切にしている。また、訴えない方でも思いや希望を理解するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごせるように、職員は配慮している。また、その人らしい暮らしができるように、一人ひとりを尊重し、利用者本位の支援を行っている。必要があれば、付き添い・見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの身だしなみになるよう心掛けている。着たい衣類を選択できる方には、選んで頂いている。また、家族が服のコーディネートをされている方もおられる。起床後は、鏡の前で自分の櫛を使用し、整髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用している。行事ごとの献立には入居者様の希望を取り入れ、楽しみなものになるよう心掛けている。料理の味付け、下ごしらえ、盛り付け、茶碗洗い、お盆拭き等と一緒にやっている。入居者様から味付けのアドバイスを頂いている。	主食と主菜は法人施設で調理しているが、汁物と副菜は利用者の希望を取り入れ、ホームで作っている。ソフト食の利用者や介助の必要な利用者が多いが、食事を楽しめるよう、職員がさり気なく介助している。行事食の時には、利用者が腕をふるう場面もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回の体重測定、毎日の食事、水分摂取量の記録を行い、一人ひとりの栄養状態を把握している。一人ひとりの状態にあった飲み物、食事形態を検討し、糖尿病の方には低カロリー甘味料を使用し、嚥下困難な方には、ソフト食を提供している。摂取量の少ない方には御家族に依頼し、本人の好きな物を持って来て頂いている。定期的に法人内の管理栄養士にアドバイスをもらっている。		

宮崎県高鍋町 グループホームメゾン・こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを毎食後に実践している。また、その方にあった口腔ケア用品を使用し、気持ち良く生活して頂けるよう努めている。必ず口腔内のチェックを行い、健康状態の把握にも努めている。数名の方は、週一回の歯科往診時に口腔内のクリーニングを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入を行い、個人の排泄パターンの把握を行っている。日中は、全入居者様がトイレでの排泄を行っており、排泄の失敗やパット内排泄を減らす努力をしている。訴えのない方でも、表情、行動の変化を見逃さず、トイレで排泄できるよう努めている。本人にあったパット類の検討も行っている。	日中は全員がトイレで排せつしている。職員は表情や行動に気配りし、排せつチェック表を活用して誘導し、失敗のない排せつを支援している。入院時にオムツを使用していた利用者に対しても、退院後は早急にトイレでの排せつに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品、食物繊維の多い食材を取り入れ、小まめに水分補給を行っている。また、個別にヨーグルト、きな粉、牛乳、オリゴ糖、みかんなどを提供している。便秘の方には、かかりつけ医に相談し、本人に合った下剤の内服調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は固定しているが、入浴する順番はその日の入居者様の気分に変更している。また、固定しているが、その他でも希望があればできるだけ入浴できるように努力している。ゆっくりリラックスできるように、入浴時にはBGM、ラジオを流し、入居者様も歌いながら入浴されている。また、個人に合った湯船の温度管理にも努めている。以前は、激しく入浴拒否されていたが、自宅で使用していたシャンプー、入浴道具を使用し、気持ち良く入浴されるようになった経緯がある。	入浴日は決まっており、職員2人体制で支援している。利用者の希望があれば、時間帯を変えたり、入浴日以外の入浴にも対応している。体位が不安定な利用者もいるが、リフト等を導入し、ゆっくりくつろいで入浴してもらえよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から一時間程度、休憩の時間を設けている。また、本人の体力、その日の体調を考慮し休憩して頂いている。フロアでは、リクライニングソファでゆっくり過ごされる方もおられる。夜間気持ち良く安眠できるように、全員のパジャマ更衣を実施している。また、日中の活動を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテに挟み、全職員で把握している。また、食堂にも説明書を置き、いつでも確認できるようにしている。症状に変化があった際には、かかりつけ医に連絡相談し、変更があった場合には、申し送りノートに記載し、全職員が周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や昔得意としていたこと、習慣を大切にし、それらを取り入れた支援を行っている。入居者様の状態をみながら、縫物、プランターを使用した野菜作り、畑での作業、家事など、一人ひとりの力を活かした役割作りを行っている。食の楽しみとして、個別に油味噌、らっきょう、ビール、甘酒などを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりその日の希望に沿った外出ができるように支援に努めている。また、入居者様との会話の中から希望を聞き取り、予定を立てて外出できるよう、ご家族にも協力を得ている。気候の良い日には、散歩、ドライブにも出かけ、個別にも墓参り、年忌、地域の行事に出かける等の支援を行っている。家族と一緒に散歩、ドライブに出かける方もおられ、日常的な外出支援を行っている。	外出の機会が増えるよう、利用者の暮らしの中で随時、ドライブや花見、外食の機会を設けている。個別支援にも積極的に取り組み、墓参り、買い物、年忌、地域の行事への参加など、家族の協力も得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9名のうち8名の方のおこずかいを預かっている。 お金は職員が管理しているが、外出先での支払いは一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。ご家族の中には声が聞きたいと希望される方もおられ、その都度対応している。入居時に、電話の取りつきについては個人情報保護に基づきアンケートを実施し、対応している。担当職員と一緒に、年賀状を家族に送った方もおられた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は日当たりの良い間取りになっており、ソファでひなたぼっこをしながら思い思いの時間を過ごされている。台所は対面式キッチンで、入居者と作業をしながら見守りのできる環境にある。フロー、廊下の床は柔らかく、入居者に負担の少ない素材を使用している。	共用空間には季節の飾り(来訪時はひな壇飾り)がなされ、光、温度、音、湿気等、細やかな気配りをしている。種々のソファ、テーブルを置き、利用者が思い思いにくつろげる空間を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格、相性を把握して、共用の空間でゆっくり過ごせるように、テーブルやソファの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人馴染みの布団・枕・家具・家族の写真・思い出の写真があり、本人が安心して過ごせる空間となっている。家庭に近い居室環境に努め、畳部屋の方もおられる。	家族の協力を得て、本人のなじみの家具や家族写真を飾り、それぞれの部屋が心地良く過ごせる空間となっている。帰宅欲求のある利用者の部屋は、家族と話し合いを持ち、自宅の雰囲気と同じになるよう畳を敷き、使っていた布団等を使うなどの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるように、障害物を置かないようにしている。 また、一人ひとりの「できること」「わかること」をいかして歩行訓練、車椅子の自力駆動練習をし、トイレに目印をつけ理解して頂けるようにしている。		